

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士

国家試験に向けての取り組み

フロローグ ～ どこか他人事のように感じていた国家試験が、一年後！？ ～

編入学により怒濤の勢いで過ぎていった三回生を無事に乗り越え、2008年2月15日に開かれた国家試験ガイダンスにて先輩方から熱の入った国家試験体験談を聞きました。初めて聞くその内容と先輩方が抱える参考書の分厚さに圧倒されたことを強く覚えています。使いこなされた、その本来よりも2倍3倍に膨れているのであろう必携や過去問題集を見せていただき、自分の中で不安とともに心の中で何かが動き始めた時期でした。

～ 暖かさが増すごとに、やる気はアップ&ダウン（4月～6月） ～

春休みを振り返って何もしていなかった自分に焦りを感じながらもいつの間にか4月に入り、大学生活ラスト一年を迎えました。常に焦りと隣り合わせの状態の中、無情にも時間だけが過ぎていきました。この時期は特にやる気のアップダウンが激しく、分からないながらも過去問題を解き、その出来の悪さと内容の難解さにより更に気分の斑が出来ました。このような状態が6月まで続き、卒業論文、授業、就職活動と同時並行に慌ただしい日々を過ごしていました。

～ 夏だ！花火だ！！よさこいだ！！（6月中旬～9月） ～

周囲の友人が社会福祉士や精神保健福祉士の実習をしている中、また国家試験があると分かっていたにも関わらず、どうしても諦めることが出来なかった夏の大会であり、高知の見どころである「よさこい」。専門学校時代に実習を終了していたということもあり、某チームのスタッフとして夏を思い切り楽しみました。この7月8月を思い切り楽しみ、何事も諦めなかったことが、のちに私にとって最大のエネルギーになりました。

～ その後、嵐のような4ヶ月間（10月～1月） 「見よってみいよっ！！！」 ～

10月3日、遂に現実逃避をすることが不可能になりました。国家試験の申し込みの説明を受け、その数日後には抜かりなく提出しました。26日には第一回目の模擬試験があり、本番のような緊張感の中で実施され、ほとんど勉強していなかった私の結果は現在の実力を素直に表したものでした。確実に不合格になるのであろうその結果をみて、自分の置かれている状況を理解し目が覚めました。その16日後（11月11日）最後の模擬試験がありました。結果は、前回よりもさらに悪く、ことごとく私の心は打ち砕かれました。しかしこの結果があったからこそ、「絶対に合格してみせる」という負けん気と闘志がみなぎりました。

～ 死に物狂い 「人間、やったら何でもできる！！」（12月～1月） ～

12月1日、どうしても自分の不安がぬぐい切れず、また今の勉強方法でよいのか分からず、新藤先生と初の面談を行いました。今思い返せばその後数回の面談も含め、これがあったからこそ私は合格することができたのだと感じています。要領よく時間を使い、計画的に過去問題を解いて理解することで、自分の中でのリズムが確立するのです。それからの毎日、遊びは勿論、外出をすることもなく、ただただ机に向かいました。寝食を忘れて無我夢中で勉強しました。自らプレッシャーをかけ、自室のみで勉強するタイプだった

学生を中心とした活動

私の部屋の壁は、至る所にメモ書きと自分へのプレッシャーの言葉が貼ってありました。100日前から日めくりでカウントダウンをし、毎日確実に実力がつくように時間を有効に使いました。

～ 本番一週間前 …そして決戦日当日… (試験日2009年1月25日) ～

他人事のように感じていた国家試験もいよいよ近づき、1月7・8・9日には合宿が行われました。不安とピリピリムードで全体の疲れもピークだったように思います。この時期の勉強はもちろんですが、一番気をつけていたことは体調管理。そして、自分の心構えです。一日は24時間しかありません。勉強を始めるとその24時間が短くて仕方がなく感じます。しかし、体調管理をしっかりしながら今まで努力してきた自分を信じて残り僅かな日を有効に過ごすよう心がけることが大切です。そこには、必ず心の支えとなる家族や共に学んできた友人がいます。その存在が大きな支えとなります。もしかすると、今まで生きてきた中で一番輝いていた時期かもしれません。

～ 大好きな私の後輩さんたちへ 「最後まで決して諦めないで!!!」 ～

私はあなたたちに伝えたい。・・・「はい、そこまで!!」と、試験監督が試験終了の合図を出すその時まで絶対に決して諦めないで下さい。限界は自分で作るものではありません。人間、言い訳はいくらでもできます。格好悪くてもいいのです。努力するその姿勢が素晴らしいのですから。伸び続ける力を信じて、吸収する力を信じて。結果はおのずとついてきます。私は大学に編入学をして、社会福祉士の国家資格を取得するという一つの夢を実現することができました。平坦な道のりではなかったけれど、それはあなたにも成し遂げることができる目標です。私は、あなたのことを信じています。自分なりのベストな勉強方法を見つけ出してください。泣きたい時・逃げたくなった時、思い切りストレスを発散してください。そうすればきっと、また何かが見えてくると思います。最後に私自身の勇気の言葉を贈って終わりにします。

「負けるな、皆で合格！ 自分を信じて、自分に勝つ！」

「大切なのは、諦めずに何度でも立ちあがる力 格好悪くても何度でも立ち向かう力」

付記

なお、本学第7期生の合格率は、社会福祉士 **78.4%** (全国平均 **29.1%**)、学校別合格率で**第14位**にランクイン (10名以上受験した福祉系大学等199校中)、精神保健福祉士合格率 **93.8%** (全国平均 **61.7%**)、学校別合格率で**第12位**にランクイン (10名以上受験した福祉系大学等110校中) でした。

平成21年3月31日

グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」、「地域貢献」、「ボランティア」を三本柱として活動しています。これまでの活動の中で大部分を占めていたのが、日韓学生合同よさこいチーム Japarean としての活動で、夏のよさこい祭りへの参加や、三里まつりや施設などでよさこい披露をさせていただいてきました。

20年度は、都合により夏のよさこい祭りへの参加を休止しましたが、その間も三里まつりや施設の納涼祭への参加、よさこい関係のイベントへボランティアスタッフとして参加するなど、地域貢献とボランティア活動を続けてきました。また、それと並行しながら、21年度の夏のよさこい祭りへの参加に向けて少しずつ準備を進めてきました。

この一年間よさこい祭りに参加しなかったことは、私たちにとって Japarean というチームを見直す良い機会となりました。そのなかで変化したのがチーム名です。Japarean は、国際交流、なかでも韓国学生との交流を大きなテーマとしてきました。これは、八年前の Japarean 発足当時、日韓の関係性が良くなかったことがあったためです。現在その関係性は改善傾向にあると同時に、近年の Japarean には韓国学生はもちろん、他国の留学生も参加してくれています。そこで、チーム名を「グローバルクラブ Japarean」と変更することに決めました。これまで通り韓国学生との繋がりを大切にしながら、さらにグローバルに活動することを目標に、韓国以外の学生も受け入れ、よさこい祭りを通して様々なことを経験し、豊かな人間性を作っていきたいと考えています。

今年のチームコンセプトは「saikai ～再会・再開～」としました。今まで Japarean に関わってきた人たちとの再会、そしてまた Japarean がよさこい祭りに参加するために活動を始めるという意味での再開、この二つの意味を込めたコンセプトです。

グローバルクラブの活動は、スタッフだけでなく、多くの方々の理解と協力のおかげで成り立っています。感謝の気持ちを忘れず頑張っていくので、これからも応援よろしくお願ひします。



♪ 太鼓部 ♪

現在太鼓部は4年生5名、3年生9名、2年生3名の17名で楽しく活動しています。練習は週に1～2回、1～3時間程度、池キャンパスの体育館で行っています。女子大の入学式・学祭・卒業式で演奏したり、施設・病院への訪問、地域のお祭りなどで演奏しています。今までの先輩たちの活動や施設とのつながりから、近年では太鼓部への演奏の依頼も増えつつあります。また、小学生に太鼓を教えに行ったり、高知県の梶原でお米をつくり、地域交流なども行っています。

「ドン…ドーン…」全身に響く太鼓の音が今も体育館に響き渡っています。一回生の時、私は先輩たちの演奏に魅せられ、自然と太鼓部に入部しました。私が太鼓部で学んできたことは、技術だけではなく、色々な魅力や出会いがあり、考え・感じるものがたくさんありました。

その一つとして、私が太鼓を演奏するとき大切にしていることがあります。それは、先輩たちから受け継いだことで、「一つひとつの曲に想いが込められている。その想いを感じながら演奏する」ということです。私も今まで太鼓に関わってきて、その意味が分かってきたように思います。私たちが演奏の中で伝えられることは、曲に込められた想いのほんの一部なのかもしれません。でも、その曲を演奏するのであれば、曲に向き合い、伝える努力をすることが必要だと思います。一つひとつの音・曲に想いを込めて、これからも演奏していきたいと思っています。

太鼓は一人では演奏することができません。一緒に演奏する仲間がいて、お互いの信頼関係や絆があるからこそ、一つの曲が完成します。そして、見て・聞いてくれる人がいて初めて、太鼓の演奏を届けることができます。それが太鼓であり、太鼓部です。お互いに思い合える仲間と頼れる顧問の先生、尊敬できる先輩たち、太鼓部にに関わり、見守ってくれる人々…。大切な人たちに支えられて太鼓部はできています。そんな太鼓部が私は大好きです。太鼓部として、これからもみんなで一緒に進んでいきたいと思っています。



❀池手話サークル❀

こんにちは！池手話サークルです。私たちは三回生6人、二回生2人、編入生1人の計9人で活動しています。活動日は毎週火曜日の5限終了後で、社会福祉学部棟の一室で本やDVDを参考にしながらみんなで楽しく手話を学んでいます。

昨年はクリスマス前の12月23日にひろめ市場で催されたイベントに参加し、手話コーラスの発表をしました。文字通り、手話で歌を歌います。クリスマス直前ということもあり、「赤鼻のトナカイ」を手話で発表しました。また、誰でも知っているだろうということで、SMAPの「世界に一つだけの花」も選曲しました。私たちを見ながら手話コーラスをしてくれている方もいて、楽しく発表することができました。手話コーラスはやってみるととても楽しいので、ぜひ体験してみてください。

その他の活動として、手話サークルの青年部との交流会への参加などがあります。昨年はあまり交流をもつことができませんでした。今年は積極的にできたらいいなと思っています。

手話は難しそうというイメージがあるかもしれませんが、それぞれの手話には由来があり、楽しく覚えることができます。これからも楽しく手話について勉強していきたいと思っていますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。



NPO法人「飛んでけ!車いすの会」高知女子大学 学生サークル いけとべ!

こんにちは、いけとべ!です。私たちは日本で使われなくなった車いすを集め、旅行者に手荷物として運んでもらうという方法で多くの発展途上国に車いすを送っています。2006年に結成して以来、カンボジア・タイ・ガーナ・ラオスに車いすを合計8台送り届けました。

昨年度は広報活動を活発に行い、高知FMラジオに出演、こうち福祉機器展にパネル展示をしました。また、8月には高知商業高校と連携し「ラオスに車いすを送ろう」イベントを開催しました。イベントでは、いけとべ!の活動紹介や、実際に商業の学生たちに車いすのメンテナンス体験や車いすの乗車体験を行い、高校生に身近なことでも国際協力になることを伝えられたと思います。その後、高知商業高校ではラオス研修旅行に行く際に、車いすを3台運んでくれました。このイベントは新聞にもとりあげられ、多くの人にいけとべ!の活動を知ってもらえたと思います。

10月には女子大OGのガーナ青年海外協力隊の南口さんとの交流会・勉強会を開催し国際協力についてや、ガーナの現状について知ることができました。

現在部員は社会福祉学部3回生3名、2回生4名、看護学部3回生1名の8名で活動しています。毎週月曜の5限に部室で勉強会やミーティング、メンテナンスを行っています。今年は勉強会やイベントをどんどん開催していきたいと思っています。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケとは、高知医療センターの「ハーモニーこうち」でボランティアをしているイケてる池キャンパスの女の子が和気あいあいと活動しているサークルです！

メンバーは、社福2回生8名、3回生7名、4回生4名の計18名で、のびのびと活動しています☆

ボランティア内容は、

*入院案内／入院患者さんをお部屋まで案内します（月・火・木 13:00～14:00）

*図書サービス（水・木 13:30～15:30）

*小児入院フロアでの見守り（毎日 お昼中心に随時）

など。その他にもガーデニングなどもあります。

ハーモニーこうちのボランティアさんたちと一緒に活動していますが、皆さんとても親切で、私たち女子大生がボランティアに行くと、ボランティア後にお茶やおやつを出してくれたりして、とてもかわいがってくれます。しかし、年々ボランティアさんの人数も減ってきており、月・火・木にある入院患者さんの案内が週に1回しかできなくなっているなど、たくさん問題も抱えています。ハモ☆イケを立ち上げたきっかけも、

「社会福祉学部のサークルとして、ハーモニーこうちを盛り上げていってくれんかな？」というボランティアさんの声でした。お隣さん同士、助け合いながら、患者さんやご家族の方たちを支えていこうじゃないか！そんな決意のもと、立ち上げたサークルです。このサークルが代々、社会福祉学部の後輩たちに引き継がれていけばいいなあと思っています。

活動時間は、主に授業の空き時間や放課後です。

去年は、メンバーの自主性を尊重し、1,2回生ともに自分の都合のつく時間を見つけての活動となりました。そのため、活発とはいえなくても、のびのびと自分の関心のあるボランティアを行うことができました。2007年11月7日発足した出来立てのサークルなので、**試行錯誤**を重ねながらの活動です。皆で話し合い、協力しながら、より良い方向へと向かっていけたらと思っています。

ボランティアサークル **かんきもん**

こんにちは！かんきもんです。私たちは、ボランティアサークルとして様々な活動をしています。「かんきもん」は土佐弁で元気者という意味です。私たちはボランティア活動により、地域を元気にすることや、誰もが幸せに生きていける地域づくりを目指して活動しています。

かんきもん内のグループ活動は現在4つあります。一つは「人権ミニレター」です。この活動は、高知県地方法務局人権擁護課が行う事業で、子どもから送られてきた相談の手紙に対し、返信内容についての意見提供などを行います。2つ目は「援農隊」です。援農隊とは高知の農業を応援したい！ということで始めた活動で、ゆずとりの手伝いや郷土料理イベントの手伝いを主にしていますが、今年は香美市と協力してゆず以外の収穫やイベントの参加を行う予定です。3つ目は「守るんジャー」です。これは、五台山小学校の子どもたちの下校を見守る活動です。あいさつ・声かけやふれあいを通して、地域の安全を守っています。4つ目の活動は「福祉教育活動」です。社会福祉学部生として、子どもを対象に福祉教育を行うという企画を考え、2009年度から南国市社会福祉協議会と一緒に活動していきたいと思っています。

これからも、いろいろな活動を継続できるよう頑張りたいと思います。



援農隊

こんにちは！援農隊サークルです。今年で結成して2年目に突入しました。4回生2人、3回生8人、2回生11人、計21人で活動しています。援農隊は、「農家・農業・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトをもち、農業や農家、地域にかかわってきました。

参加した活動は、安芸市の入荷内・畑山地区でゆずの収穫と、高知県立歴史民族資料館での郷土料理を食すイベントの配膳や特産物の販売の手伝いを行いました。ゆずの収穫では、ゆずを取る他にゆずの原液を入れるビンを洗ったり、その土地の郷土料理を、農家の方と一緒に作ったりしました。

今後は、援農隊単体としてのサークルではなくなり、ボランティアサークルかんきものグループ活動の一部として活動していきます。もっと地域に関わろうと思い、新たに香美市物部での活動も考えています。内容は、みかん狩り、野菜の収穫などの農作業や、食事会を開く・郷土料理を教えていただくなどの交流を持つといったものです。他にも地域の方と話し合いを持ちながら、様々な活動を行っていこうと考えています。

